

日本保健医療社会学会ニューズレター (No. 100) 2016/1/25

目次

1. 第42回大会へのお誘い
2. 論文執筆支援研修会の開催
3. 電子ジャーナル版保健医療社会学論集の移行
4. 関東定例研究会 報告・案内
5. 関西定例研究会 報告・案内
6. 看護・ケア研究部会 報告・案内
7. 平成27年度第3回理事会報告
8. 平成27-28年度評議員の紹介(追加)
9. 編集委員会報告
10. 国際交流委員会報告
11. 本学会におけるマイナンバーの取り扱い
12. 編集後記

1. 第42回大会へのお誘い

第42回日本保健医療社会学会大会長 蘭^(あららぎ)由岐子(追手門学院大学社会学部)

本年5月14日(土)15日(日)追手門学院大学(大阪府茨木市)で第42回大会を開催いたします。テーマは「問題経験のナラティブをきく」としました。「病いの経験」は、個人やそれを取り巻く人々の問題経験の最たるものであり、それはナラティブの形で表明されるものです。私たちは、近年、そのナラティブに耳を傾け、研究対象として分析したり、病者に寄り添い、支える術として活用したりしています。本大会が、病者のナラティブにくわえて、「病い」をめぐる医療者、研究者のナラティブをも共有できる機会となることを願っています。

また、集合的な問題経験として「〈薬害〉」を取り上げ、このテーマの下、シンポジウムと教育講演を開催します。

多くの皆さんの参加と事前登録をお待ちしております。

●シンポジウム「〈薬害〉のナラティブ—その共有と継承」

【問題提起】

増山ゆかり(公益財団法人いしづえ サリドマイド福祉センター)「薬禍の風霜」

本郷正武(和歌山県立医科大学)「〈薬害〉経験伝承のための医療社会学的検討」

望月眞弓(慶応大学)「『薬害を防ぐ社会』に繋ぐ薬害教育」

【討論者】

大西赤人(むさしのヘモフィリア友の会)

伊藤美樹子(大阪大学)

【司会】山田富秋(松山大学)

●教育講演

【講師】花井十伍(大阪HIV薬害訴訟原告団代表)「薬害エイズの教訓から考える」

【司会】蘭由岐子(以上、敬称略)

★事前申し込みについて

例年通り、事前申し込みを受け付けます。参加費が1,000円安くなりますので、ぜひご活用ください。

大会ホームページ <http://square.umin.ac.jp/medsocio/conf2016/entry.html> から申し込んでください。期限は、4月11日です。参加登録後、参加費の振込もこの期間に行ってくださいますようお願いいたします。事前申し込み期間を過ぎてから振り込まれた場合は、当日受付と同額を頂戴しますので、ご注意ください。

★交通案内について

追手門学院大学までの交通アクセスについては、大学ホームページ <http://www.otemon.ac.jp/guide/campus/access/> をご覧ください。

また、最寄り駅の JR 茨木駅、阪急茨木市駅から本学までの路線バス（阪急バス）については、プログラムの概要が決まり次第、大会ホームページで案内する予定です。

2. 論文執筆支援研修会の開催

『論集』編集委員会では、来る3月5日（土）午後、大阪で、「論文の執筆と投稿に関する講演とRTD」（会員限り、無料）を、開催します（前回2015年5月16日に首都大学東京で開催しましたので、今回は関西で開催することにしました。下記5番で案内されている第2回関西定例研究会と、同日に、同じ会場で行います）。

内容としては、まず、昨年度園田賞を受賞した石田絵美子会員が、学会奨励賞受賞論文の執筆・投稿・修正過程についての講演をして下さいます。次いで、本企画担当の井口編集委員が、査読に関するミニ講演を行います。そのあとは、論文執筆と投稿についてのラウンドテーブルディスカッションの予定です。当企画は当日飛び込み参加も受け付けますが、資料準備の関係がありますので、できれば事前に参加の旨をご連絡ください。日時、場所、企画内容、申し込み方法等につきましては以下をご参照ください。

◎ 日時：2016年3月5日（土）13:00～14:30

◎ 場所：大阪市立大学梅田キャンパス・文化交流センター・小セミナー室

（駅前第2ビル6階 <https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/university/access#umeda>）

◎ 企画

13:00～13:05 主催者挨拶

13:05～13:35 第1報告 石田絵美子（神戸市看護大学）

「投稿論文の執筆過程：査読コメントへの対応を中心に」（仮題）

13:35～13:55 第2報告 井口高志（奈良女子大学）

「投稿論文の査読過程・査読コメントの実例」（仮題）

13:55～14:25 ラウンドテーブル ディスカッション

14:25～14:30 まとめ（アンケートを御願います）

◎申し込み方法（*当日参加も可能）

①電子メールで、「igutaka★cc.nara-wu.ac.jp（井口）」（★を@に変えて送信）宛に

②氏名、所属、e-mailアドレス、本企画に期待すること、を記して送信して下さい。

（樫田理事：学会誌編集担当）

3. 電子ジャーナル版保健医療社会学論集の移行

学会機関誌のWEB公開場所を、NII-ELSからJ-STAGEに移行する手続きを行っています。この関係で、『論集』24巻1号まではNII-ELS上で公開されていますが、24巻2号の公開が遅れています。現在、J-STAGEサービス利用申込を行い、J-STAGE掲載についての審査の結果、第3期(2016年3月以降掲載開始)J-STAGE掲載誌として採択されたとの通知を受けました。今後は、利用説明会、ヒアリングシート作成、JSTでのサイト構築などを経て、2016年4月以降に公開の予定です。すでにこのために必要なオンラインISSNを申請し、登録予定番号の通知を受けています(2189-8642)。今後はJ-STAGE掲載のためのPDFを作成する必要があり、この業務を国際文献社に1号につき25,000円で委託することになりました。また、これまでNII-ELSで公開されていたデータのJ-STAGEへの移行は、平成28年4月以降になる見込みです。

(石川理事：学会誌編集担当)

4. 関東定例研究会 報告・案内

1) 報告

日時：2015年10月10日(土) 14:00~16:00

場所：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス 秋葉原ダイビル 12階(1202)D会議室

報告者：孫大輔先生(東京大学大学院医学系研究科医学教育国際研究センター講師)

タイトル：「カフェ型ヘルスコミュニケーションにおける変容的学習」

要旨：孫先生は、家庭医として生活習慣病や慢性疾患患者の生活を知る必要があるのだが、患者は診察室では本音を言えていないと考え、医療系専門職と市民・患者がワールドカフェなどで自由にフラットな対話を通じて互いに学び合う「みんなのカフェ」を開催している。参加者を対象とした調査の分析から、そこで「変容的学習(transformative learning)」のプロセスが起こり、他者への理解が促進されていたことが確認された。さらに、カフェのファシリテーター育成講座の修了生が全国で活動を展開していて、地域住民の誰もが参加し学びあい、支えあえる地域づくりを目指すとして報告された。

報告後の質疑応答では、カフェの案内がソーシャルメディアであることによる市民としての特殊性と医療者も市民であるという二重性があること、ファシリテーター育成では質の担保や活動の把握よりは自由な活動の展開を優先していること、専門医を中心とした医師の自己中心性やプライドの変化の可能性、看護職が医師に対抗してしまうなど他の職種との関係性、社会全体が情報に基づく意思決定のためにフラットなコミュニケーションやつながりを求めている可能性などが話題となった。今後の広がりとその意味するものについて、今後も注目すべき活動であることが確認された。

(中山理事、田代理事、西村理事：研究活動)

5. 関西定例研究会 報告・案内

1) 案内

第2回関西定例研究会を3月5日(土)に大阪市立大学梅田キャンパスにて開催いたします。

すでにご案内しております通り、今度の関西定例研究会は、「〈薬害〉のナラティブ-その共有と継承」と連携するテーマとして企画しました。若生さんからは、1990年代のHIV感染血友病患者

者支援の経験を、佐野さんからは、〈薬害〉経験により活動が休止された血友病患者会を束ねる全国組織が、2000年代に入り「ヘモフィリア友の会全国ネットワーク」として再始動にいたる経緯やその経験をお話いただきます。

同日の研究会開催の前には同じ会場で編集委員会企画も開催されます。

日時：2016年3月5日（土） 15:00～17:00

場所：大阪市立大学梅田キャンパス・文化交流センター・小セミナー室（駅前第2ビル6階）

テーマと報告者：

大会シンポジウム連携企画「〈薬害〉経験のナラティブをきく」

大阪の血友病患者会はどのように問題経験を切り抜けたか

—四半世紀を振り返って

若生治友（大阪ヘモフィリア友の会）

血友病患者会全国組織の再始動

佐野竜介（ヘモフィリア友の会全国ネットワーク）

連絡先：伊藤美樹子（itmkk_at_sahs.med.osaka-u.ac.jp：_at_を半角@に）

（伊藤理事、進藤理事：研究活動）

6. 看護・ケア研究部会 案内・報告

1) 看護・ケア研究部会 関東定例会共催 公開企画 報告

日時：平成27年11月28日（土）15:00～17:00

場所：首都大学東京荒川キャンパス 講堂

テーマ：「医療政策の決定過程：会議の政治学」

講師：森田 朗先生（国立社会保障・人口問題研究所 所長）

指定討論者：小澤 温先生（筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授）

司会：中村 美鈴（自治医科大学看護学部 教授）

要旨：中央社会保険医療協議会（以下、中医協）の元会長による講演であり、審議会の機能をはじめとした医療政策の決定過程について、報告がなされた。具体的には、医療政策の合意形成の類型とプロセス、中医協の関連組織、既存の医療システムにおける診療報酬改定のスケジュールとあり方、審議の実際、決定のメカニズムなど、経験に基づく講和であり、わかりやすく説明いただいた。その上で、支援現場の実態と政策に詳しい小澤温先生から、「事務局の想定シナリオに沿った合意形成がなされていくのか、その場合は知見や既存の研究データなどエビデンスとなるものはどう考えたらよいのか、中医協の決定のあり方にも検討が必要ではないか」とコメントがあった。他、フロアの参加者と課題を共有し、活発な討議がなされた。

参加者は33名であった。アンケートは23名から回答いただき、その内容は「中医協で行われている議論が具体的に理解できた」、「経験を踏まえてご教示いただき、非常にわかりやすく面白かった」など、大変好評で肯定的な意見ばかりであった。

2) 看護・ケア研究部会 9月定例会報告 要旨

日時：9月12日（土）14:00～17:00

場所：首都大学東京荒川キャンパス 校舎棟4階463教室

発表者：齋藤公子さん（立教大学大学院博士課程前期課程）

発表テーマ：「がん患者は〈補完代替医療〉の利用でなにを手にしたか ―グループワークに参

加する患者たちの語りから—

要旨:今回は、がん患者当事者である発表者が、がん患者を対象としたグループワークで出会ったピア8名に対してインタビューを行い、それにもとづき執筆している修士論文の概要を報告した。

この研究はライフストーリー研究として進められてきたが、その理由や、研究目的に照らしたその妥当性について議論された。そのなかで、研究者の当事者性は研究にどのように反映されるべきかという点についても検討がなされた。

加えて、＜補完代替医療＞の使用というがん患者たちの行動をどう捉えるのかについて、掘り下げた議論がなされた。医療者か患者かなどの立場の違いにより、捉え方に違いが出るのが明らかになった。

先行研究の選択とその検討における課題、研究の意義やその結果活用における課題なども浮き彫りになった。看護学、社会学それぞれの異なった領域の研究者の参加により議論が深まり、意義深い機会となった。

3) 看護・ケア研究部会に関する問い合わせ先

看護・ケア研究部会へのお問い合わせ、入会希望者のご紹介などは、庶務までご連絡ください。メールまたは郵送・FAX で入会案内をお送りいたします。例会見学も随時受け付けております。

日本保健医療社会学会 看護・ケア研究部会 2014-2015年度 役員

会長・中村美鈴、副会長・朝倉京子、会計・松繁卓哉、庶務・白瀬由美香（事務局）

e-mail: y. shirase_at_r.hit-u.ac.jp（看護・ケア研究部会事務局：_at_は半角@に）

（西村理事：研究活動）

7. 平成27年度第3回理事会報告

日時：2015年12月12日（土） 11時～14時

会場：首都大学東京 秋葉原サテライトキャンパス

出席者：蘭会長、清水理事、樫田理事、石川理事、進藤理事、伊藤理事、中山理事、事務局 平野（記 国際文献社）

欠席者：西村理事、田代理事、細田理事

1. 2015年度 前期予算執行状況（清水）

清水総務理事より2015年11月末までの予算執行状況が報告された。収入の部では、会費の納入率は75%であり、これまで多かった過年度分の年会費支払の減少及び新入会者の減少がみられていること、今後の督促の予定が報告された。

支出の部ではほぼ前年と一緒だが、予算には計上されていない監査時の交通費と名誉会員の記念楯費用が計上されていることが伝えられた。

2. 第42回大会について（蘭）

蘭大会長から準備の進捗状況として、一般演題およびRTDの募集が開始されて、会員への周知が行われている旨が報告された。研究担当理事を中心に部会編成および司会選定・依頼の担当を決定した。

そのほか、大会時に開催する委員会の日程を確認した。

3. ニューズレター100号の配信について (清水)

清水総務理事より次号ニューズレターは1月末から2月頃を目安に発行することが伝えられ、掲載内容の確認を行ったうえで、各理事に担当箇所原稿の提出が求められた。

4. 編集委員会報告 (榎田・石川)

榎田編集委員長より次第添付資料の通り11月7日に開催された編集委員会の報告がなされた。

26巻1号について、原稿の遅れから発行が遅れたことが報告され、今後は遅れが事前に分かっている場合は会員向けにメール配信等でアナウンスするなどを検討することとなった。

論文執筆支援研修会を3月5日に開催することを、ニューズレター等で案内することとした。

NII-ELSからJ-stage Liteへの移行に関連して、今年度からの支出として24巻2号、25巻1号のJ-stage掲載用PDF作成費が70,000円(税抜、1号:35,000円)が発生することが報告された。また、2016年度予算についても同様に25巻2号と26巻1号の掲載用PDF作成費70,000円(税抜、1号:35,000円)を計上したいとの申し出があり、承認された。その他に書評依頼の為の費用も予算に計上することとなった。

5. 定例研究会の報告(関東) (田代・中山・西村)

中山理事より10月10日に首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスにて孫大輔先生を講師に招いて定例研究会が開催され、参加者が10名程だったことが報告された。

6. 定例研究会の報告(関西) (伊藤・進藤)

進藤理事より9月28日に大阪市立大学梅田キャンパスにて定例研究会が開催されたことが報告された。また、3月5日には伊藤理事が中心となって第42回大会シンポジウムと連動した企画を行うこととし、既に会員向けにメール配信でアナウンスしていることが伝えられた。

7. 看護・ケア研究部会の報告 (西村)

西村理事の代理として中山理事より11月28日に開催された平成27年度公開企画の報告がなされた。参加者は合計33名であった。

8. 渉外・国際交流活動の報告 (細田)

細田理事の代理として清水総務理事より次第添付資料の通り社会学系コンソーシアム及び国際交流活動について報告がなされた。

社会学系コンソーシアムよりアンケートの依頼があり、1月17日が締め切りの為、12月中に意見を収集することとなった。

9. 園田賞選考委員会について

園田賞の選考委員及び選考委員長を選任した。(委員及び委員長は非公表)

10. 名誉会員推挙について

清水総務理事より次第添付資料の通り、名誉会員の推挙について候補者の提案があり、一名について承認された。また、役員歴についてはデータが不完全の為、今後の検討課題となった。

11. 国際文献社への事務委託契約更新について

清水総務理事より次第添付資料の通り、次年度の契約書案について今年度との変更点が伝えられ、次年度も契約更新することとなった。なお学会誌残部が倉庫に約20箱あり、管理コストがかかるため、今後、廃棄の方向で検討することとした。

編集の契約に関しては編集委員会で確認後、検討していくこととなった。

12. マイナンバー制度への対応について

清水総務理事より9月30日にマイナンバー制度のセミナーに参加したことが報告され、マイナンバーの収集について国際文献社へ委託することが提案され、承認された。それに伴い、国際文献社と特定個人情報の取り扱いに関する覚書を交わすことが伝えられた。

関連する規程を作成する義務はないが、理事が任期によって変わるので、国際文献社より規程の雛形を入手し、次回理事会で内容を検討していくこととした。

学会にも法人番号が割り当てられたが、その公開について他学会の状況も確認しつつ、検討していくこととなった。

13. その他

・日本学術会議アンケート調査について

日本学術会議のアンケート調査について年内中に確認するよう伝えられた。

・社会学系コンソーシアムの選挙

清水総務理事より社会学系コンソーシアムの選挙について、細田理事が参加することが伝えられた。

・Twitter公式運用

Twitterの運用について非会員への情報発信としても役立つ為、公式運用していくこととなった。

・ニューズレターアーカイブのHP掲載

清水総務理事よりニューズレターのアーカイブについては研究会時代のバックナンバー等の掲載可能部分から対応していくことが提案され、承認された。

・大会業務委託費の検討

現在、大会関連の業務委託費を学会予算から支出しているため、大会の収支上、黒字が目立つ傾向にあるため、大会の事務委託費を現行通り学会からの支出とした場合と、大会からの支出に変更した場合とで、資料を基に議論を行い、大会校の業務・会計負担を軽減するという原則は維持することを確認し、第42回大会の決算の状況も踏まえて、引き続き妥当な会計の方法を検討することとした。

・第43回大会について

現在、大会長就任の内諾を得ているが、大会校の負担軽減の方針に即して業務の割り振りを研究活動理事と大会長とで確認する必要があるため、蘭会長から大会長就任予定者にどのように行う予定かを確認することとした。

蘭会長より第44回大会開催校については、第42回、43回と関西が続く予定ため関東での開催にしたいとの意見があり、検討の末、候補に挙がった会員へ連絡することとなった。

・新入会の承認

新入会2名(通常会員)、会費免除1名(通常会員)が承認された。また、物故2名(通常会員)が報告された。

14. 次回の理事会日程について

3月初旬頃に開催予定とし後日日程調整することとした。

以上

(清水理事：総務)

8. 平成27-28年度評議員の紹介(追加)

平成27年度第3回理事会での承認を経て、評議員への就任を依頼し承諾の得られた評議員は以下の通りです。任期は平成29年5月の大会終了時までとなります。

三井 さよ (法政大学社会学部)

(清水理事：総務)

9. 編集委員会報告

以下、機関誌編集委員会の現状と未来の予定を、箇条書きで、簡単に報告いたします。

1) 2015年度第2回編集委員会の開催報告と第3回の開催予定について

2015年11月7日に、第2回編集委員会を開催しました。会場は、国際文献社の本社の4階会議室です(本年は、理事及び委員が改選されたため、日程調整を5月になってから開始することになり、10月での開催はできませんでした。しかし、第3回は、すでに日程調整が済んでおり、4月10日の開催で決定しております)。

2) 第2回委員会での審議事項のうち、主要なものを上げると以下のようになります。

- ・2015年9月末の論文投稿は7本ありました。その全てに関して、担当編集委員各1名と査読担当候補者を(予備候補も含め)各3名、決定しました。
- ・特集については、27巻1号の特集企画(石川・樫田の担当)は順調に進行中であることが確認されました。テーマは、「保健医療におけるコミュニケーション研究の現在-患者・医師関係研究を踏まえて/越えて」です。28巻1号の特集/書評特集企画については、次回委員会までに、白井委員/井口委員が企画案を提出することとなりました。
- ・また研修会企画に関しては、急遽、2016年3月5日の関西定例研究会の開始前の時間に同じ場所で開催することとなり、井口委員が担当として準備を進めることとなりました。

(樫田理事：学会誌編集)

10. 国際交流委員会報告

1) 第3回国際社会学会(ISA)フォーラムが、ウィーンにおいて2016年7月10日から14日まで開催されます。すでに発表者選考は行われましたので、発表者は4月5日までに参加登録を済ませてください。

2) 国際社会学会(ISA)RC15(健康社会学)理事長Amélie Quesnel-Valléeから、2015年11月13日のパリ連続テロに関して、フランスおよび痛みを受けたすべての社会学者たちへのメッセージが流されました。日本保健医療社会学会会員メーリングリストでも、全文をご紹介します。

3) East Asian Social Policy (EASP、<http://welfareasia.org>) の年次大会が、「東アジアにおける社会政策とジェンダー」をメインテーマとして、2016年7月1～2日に韓国・梨花女子大学で開催されます(報告要旨の期限は3月13日)。EASPは韓国・台湾から英国への留学生を中心として2005年に設立されましたが、近年では東アジアにおける社会政策の主要な国際学会に発展しています。

2017年(もしくは2018年)には日本での大会開催が予想されることもあり、皆様の積極的なご参加を期待しております。

4) 今後も、学会員の皆様に国際交流や国際共同研究に関心を持っていただけるような取り組みをしていきたいと考えています。ご意見やご要望がありましたら、細田

(miwhosoda_at_seisa.ac.jp _at_は@に) までご連絡ください。

(細田理事：渉外・国際交流)

1.1. 本学会におけるマイナンバーの取り扱い

2016年1月より、いわゆる「マイナンバー法」が施行され、学会の業務、特に謝金の支払いなどにおいて、マイナンバーを取り扱う場合が考えられます。マイナンバーの管理業務は非常に複雑であることから、現在の事務業務委託先である国際文献者への委託業務の中にこれらを含めて対応してもらうことと第3回の理事会で決定しました。

これにより、本学会の業務遂行や大会運営において、会員や講師等のマイナンバーの取得が生じた場合に理事や大会関係者がマイナンバーの取得、管理、破棄をすることはなくなります。2016年については、必要な方について秋ごろから事務局からお尋ねをする予定とのことです。本学会を称する不審な問い合わせなどには十分ご注意ください。

ご不明の点がございましたら、学会事務局までご連絡ください。

(清水理事：総務)

1.2. 編集後記

・秋から運用を始めた学会広報用のTwitterアカウントでは、会員以外への紹介のほか、求人情報なども掲載するようにしています。要望がございましたら、学会事務局までご連絡ください。

・日本保健医療社会学会ニューズレターは第92号からはpdfファイルのメールマガジン形式で配信しています。もしメールマガジンの文字が読めない場合などの受信に問題がある場合は、恐れ入りますが、日本保健医療社会学会事務局(下記)まで御連絡ください

<http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm>

(清水理事・総務)

発行：日本保健医療社会学会

編集：総務担当(清水準一)

学会事務局：

東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

jshms-office@bunken.co.jp

TEL：03(5389)0237